

第三者による徹底した原因究明 佐賀空港へのオスプレイ配備中止を

自衛隊ヘリ 墜落事故

日本共産党が九州防衛局に申し入れ



地域住民から当時の様子を聞き取りする。仁比参院議員と田村衆院議員、神埼市議ら＝6日



防衛大臣あての申し入れ書を手渡す武藤、井上両佐賀県議と、原、福田の各神埼市議、真島前衆院議員ら＝13日、九州防衛局



事故翌日、ヘリが所属する目達原駐屯地がある吉野ヶ里町を訪れ、町長から話を聞く仁比参院議員（中央）と田村衆院議員（左）＝6日



散乱したヘリの部品を調査する（右から）仁比、真島、武藤の各氏＝6日、神埼市

防衛大臣 小野寺五典 様

自衛隊のヘリコプター墜落に関する申し入れ

2018年2月13日
日本共産党佐賀県委員会
委員長 今田真人

たる2月5日、自衛隊目達原基地所属のヘリコプターAH64D（通称「アパッチ」）が、神埼市千代田町嘉納の民家に墜落し、自衛隊員2人が死亡し民家にいた女児が怪我をした墜落事故について、強く抗議をします。

同時に、亡くなった隊員へのお悔やみと、被害に合われたご家族・近隣住民へのお見舞いを申し上げます。

同ヘリコプターは、部品を交換したあとのテストフライト中だったと言います。十分な点検ができていたのかどうかを含めて、防衛省に全責任が問われています。

現場は、小学校・幼稚園もすぐ近くにあり、周辺は田んぼに囲まれています。近くに住む人たちから「どこの家に落ちてもし不思議ではない」「住民の被害がもつと大きくならなかつたのは奇跡的だ」と言われています。

さらに事故後の2月8日午前、福岡県春日市の航空自衛隊基地のヘリコプターが二度にわたって、周辺上空を飛行していますが、地域住民にとっては不快感と恐怖を覚えた。事故後あまりにも無神経ではないかと私たちに意見が寄せられています。

直撃された民家から離れた、近くの麦田やクレークにも破損して飛び散った部品が散乱しており、凄まじさを示しています。このことから見ても制御不能になっていたことは明らかです。

重大事故との認識のうえにたち、一度とこのような悲惨な事故を起こさないため、次のことを申し入れます。

- 1、徹底した原因究明を行うこと
- 2、全機種の見直しを行うこと
- 3、同型のヘリだけでなく、すべての機種の飛行訓練を中止すること
- 4、防衛省の内部調査ではなく、第三者による調査と究明を行ない、情報を公開すること
- 5、飛行ルートの見直しをすること
- 6、被害者宅はもちろん、周辺の麦田所有者への十分なお詫びと補償、被害家族への心理的ケアを行うこと
- 7、佐賀空港へのオスプレイ及び、自衛隊機の配備を行わないこと

以上

陸上自衛隊の対戦車ヘリコプターが佐賀県神埼市の住宅に墜落（5日夕）し、住宅が炎上した事故を受け、直ちに日本共産党の仁比そうへい参院議員と田村貴昭衆院議員が現地に駆けつけ調査。党佐賀県委員会は2月13日、九州防衛局に厳重抗議し、徹底した原因究明やヘリの飛行停止などを小野寺防衛大臣あてに申し入れました。

申し入れでは、「ヘリが住宅上空を飛んでいる限り、不安はなくなる」と、住民の不安や憤りの声を紹介。ネット上の暴言で被害家族がショックを受けていることも指摘し、「国も暴言を許さない態度を示してほしい。被害者は二重に苦しんでいる」と訴えました。事故から3日後に現場近くを大型輸送ヘリCH47Jが

飛行したことにも強く抗議し、全機種の見直し、佐賀空港へのオスプレイ配備を行わないことを求めました。

申し入れには、真島省三前衆院議員、武藤明美、井上祐輔両県議、原信義、佐藤知美、福田清道の各神埼市議、池崎基子オスプレイ配備反対佐賀県連絡会事務局長らが参加しました。